

# アジア・マンスリー

(ASIA MONTHLY)

トピックス

1. 中国によるレアアース輸出規制の行方（三浦 有史） ····· 1  
2. 東南アジアへのデータセンター投資が活発化（吳 子婧） ····· 3

## 各国・地域の経済動向

- |           |                           |   |
|-----------|---------------------------|---|
| 1. 台湾     | 景気は一部品目の輸出が主導、経済全体は二極化が進行 | 5 |
| 2. インドネシア | 足元で内需回復するも先行き景気は減速へ       | 6 |
| 3. ベトナム   | 輸出好調も、内需に息切れ感             | 7 |
| 4. 中国     | 内需が一段と減速                  | 8 |

「経済・政策情報メールマガジン」、「X(旧 Twitter)」、「YouTube」でも情報を発信しています。

<https://www.jri.co.jp/company/business/research/mailmagazine/form/>

---

[https://mobile.twitter.com/iri\\_eco](https://mobile.twitter.com/iri_eco)

---

<https://www.youtube.com/@user-ij6bd9bp5y>



## 中国によるレアアース輸出規制の行方

主席研究員 三浦 有史  
(hiraiwa.yuji@jri.co.jp)

2025年10月末の米中首脳会談を受け、中国によるレアアースの輸出規制は1年延期された。中国は、対立する国に圧力をかける手段として、今後もレアアースの輸出規制を頻繁に実施するのであろうか。

### ■生産の7割、精製の9割が中国

レアアースは、原子を構成する電子軌道が特徴的で、優れた光学特性や磁気特性などを発現するため、その用途が広く、ガラス・セラミックス産業、化学産業、鉄鋼業、エネルギー産業、機械産業、電気・電子機器産業、光学精密機器産業、医療機器産業などで利用され、ハイテク産業の「ビタミン」と称される。

レアアースの生産量は1980年代半ばまで米国が世界最大であったが、1990年代には中国が米国を追い抜き世界最大の生産国となった。米地質研究所(USGS)によれば、中国のレアアース生産量は2018年から急増し、2024年には27万トンと世界全体の69.2%を占める(右上図)。

レアアースは、①採掘による鉱石の生産、②抽出・分離・精製(以下、精製とする)による酸化物の製造、③電解・還元によるレアアース金属の製造、④合金化による最終製品の製造という四つの工程を経るが、中国は生産よりも精製においてより大きなプレゼンスを有する。

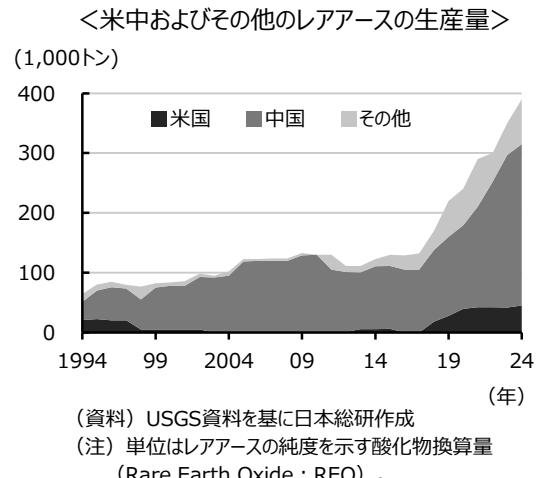
世界エネルギー機関(IEA)によれば、中国では2024年に7万3,800トンのレアアースが精製され、世界全体の91.7%を占める(右下図)。中国は世界のレアアース供給を支配しており、輸出量を制限することで対立する国に圧力をかけることができる唯一の国である。

### ■輸出規制の弊害

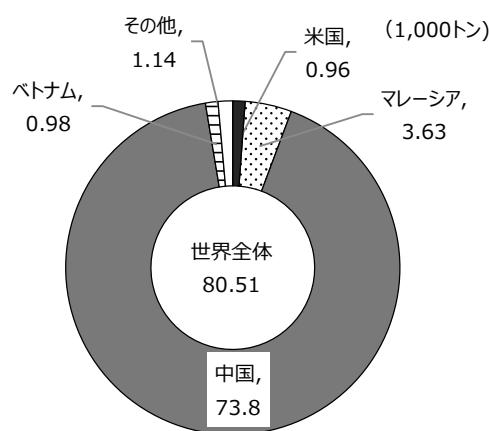
IEAは、2040年の世界のレアアース生産における中国の割合を52.3%、精製に占める割合を75.7%と予想している。中国の支配力はやや弱まるものの、日本を含む先進国がレアアースの安定調達に対する不安から解放されることはないと言えそうである。

しかし、次に指摘する点から、中国政府によるレアアースの輸出規制は中国としても頻繁に実施できるものではなく、長期化する可能性も低いとみられる。

第1は、輸出規制によってレアアース価格が上昇すると、中国以外の国におけるレアアースの開発、あるいは、省資源技術・代替材料の開発を促すことである。過去のレアアース価格は、特



### ＜レアアースの国別精製量（2024年）＞



(資料) IEA, Critical Minerals Data Explorer,  
21 May 2025を基に日本総研作成  
(注) 重量は酸化物当量 (REO) ではなく、希少元素含有量。

定の期間を除いて、安定的に推移している（右上図）。これは、中国以外の国におけるレアアースの開発、そして、省資源技術・代替材料の開発を抑制する役割を果たしてきた。将来もレアアースの輸出規制を機能させるために、中国は安価なレアアースを提供し続ける必要がある。

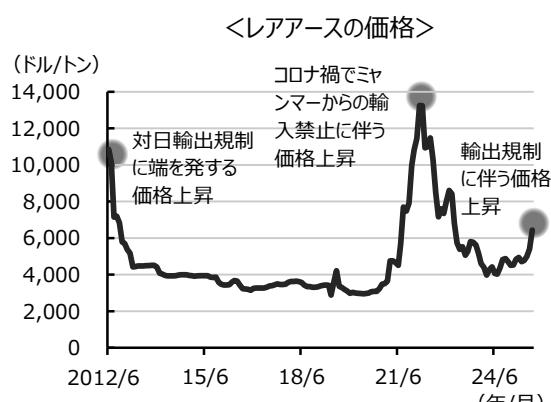
第2は、レアアース価格の上昇は違法採掘や密輸という、中国のレアアース産業を悩ませてきた問題を再び深刻化させることである。2025年4月に輸出が規制されたことを受け、レアアースの内外価格差は急速に拡大し、ジスプロシウムの国際価格は2025年9月に800～1,200ドル／キロと、中国国内（169ドル／キロ）の4.7～7.1倍に上昇した。

第3は、中国はレアアースの輸入国となり、圧倒的なレアアース精製量に基づくレアアース支配は、以前に比べかなり脆弱になっていることである。中国は2018年からレアアースの輸入量が輸出を上回る純輸入国となっており（右下図）、世界最大の精製国としての立場は、この安定的な輸入によって維持されている。レアアースの主な輸入先はミャンマーであるが、同国のレアアース生産地域を支配している少数民族武装勢力カチン独立軍（KIA）と中国の関係は不安定である。

第4は、レアアースの輸出規制が長期化すると、中国のその他の輸出にも影響を与える可能性が高いことである。ネオジム磁石などのレアアースを用いるのは、スマートフォンやパソコンなどの電子機器や電気自動車（EV）など、中国の輸出を支えている産業である。輸出規制が長引き、中国以外の国におけるそれらの生産が滞ることになれば、レアアースを含まない部品を製造・輸出する中国企業の活動にも悪影響が及ぶことになる。

#### ■輸出規制はあくまで交渉のカード

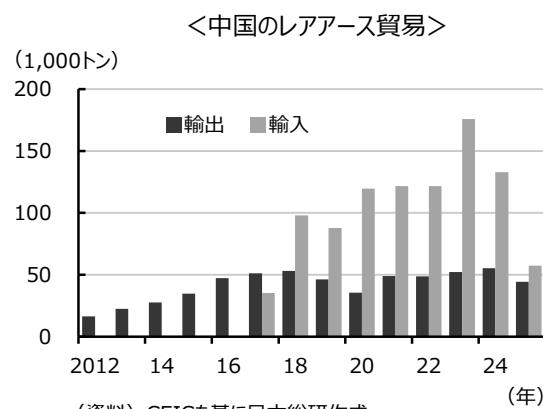
こうしたことから、レアアースの輸出規制は中国としても頻繁に実施できるものではなく、長期化する可能性も低いと見込まれる。中国にとっては、対立する国にレアアースの調達リスクを意識させながらも、安価なレアアースの供給を続けることで、脱「中国依存」が進まない状況をつくりだすのが最も望ましい展開である。であれば、「輸出禁止」はあくまで最終的な切り札であり、必要に応じて「原則禁止」や「許可制」による輸出量の削減を交渉カードとして活用する方が最も望ましい戦略である。先進国では、レアアースの安定調達に向け、オーストラリアなどの中国を代替する資源国を探す動きが活発化しているが、上記の中国の立場や戦略を踏まえれば、輸入国側は備蓄の積み増しといった対策の有効性が思いのほか高いと言えそうである。



(資料) 国際通貨基金（IMF）資料を基に

日本総研作成

(注) IMFが国連の貿易統計（Comtarade）を基に作成。



(資料) CEICを基に日本総研作成

(注) 2025年は1～8月値。

## 東南アジアへのデータセンター投資が活発化

研究員 吳 子婧  
(wu.zijing@jri.co.jp)

AI ブームの盛り上がりを背景に、東南アジア各国へのデータセンター投資が急増している。各国の雇用創出や産業育成にプラスとなる一方、先行き電力・水不足や米中対立の板挟みに陥るリスクもある。

### ■東南アジアでデータセンター投資が急増

東南アジアでは、世界的な AI 需要の高まりを受けて、データセンター建設のための投資が域外から相次いでいる。とくに、マレーシア、インドネシア、タイが投資先として注目を集めている（右上図）。すでにデータセンターハブとしての地位を確立しているシンガポールでは、土地の取得や投資の審査が厳しくなり、新規建設が難しくなった結果、これらの国々が代替地として脚光を浴びている。投資を主導しているのは、米国のグーグル、マイクロソフト、AWS、および中国のアリババ・クラウド、北京皓揚雲数拠科技などのグローバル IT 企業である。

### ■投資増加の背景

東南アジアへのデータセンター投資が拡大している背景として、以下の 3 点が挙げられる。

第 1 に、地政学的な中立性である。米中対立の激化を受け、データのプライバシーや安全性を確保するため、グローバル企業が政治的に中立性の高い東南アジアに拠点を移し、データの保管・処理を行う動きが加速している。

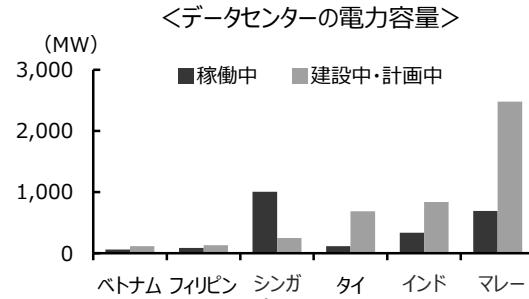
第 2 に、現地でのデジタルサービス需要の拡大である。東南アジアではインターネット普及率が高く、若年人口の多さも相まって、EC（電子商取引）や SNS などのデジタルサービスが急速に拡大している。これにより、計算処理能力やデータストレージへの需要が高まり、データセンターの増強が期待されている。

第 3 に、各国政府による積極的な投資誘致策である。マレーシア、インドネシア、タイなどでは、外資誘致を目的とした税制優遇措置や規制緩和など、データセンター関連インフラへの投資を呼び込むための政策が相次いで打ち出されている（右下表）。

### ■データセンター立地推進による経済メリット

各国政府が積極的にデータセンター投資を誘致する背景として、①生産と雇用の拡大、②人材育成と技術移転、③産業の高付加価値化、といった経済的なメリットが挙げられる。

生産と雇用の拡大については、データセンター関連投資は 1 件当たりの投資額が大きく、建設業のみならず、電力・通信・製造業など幅広い関連産業への経済波及効果が期待される。各国で建設中および計画中のプロジェクトがすべて実現した場合、最大で数百億ドル規模の生産誘発効果が見込まれている（次頁右上図）。また、建設ラッシュに伴う雇用創出や税収増加を通じて、



(資料) Cushman & Wakefield [2025]を基に日本総研作成

### 〈データセンター投資誘致策〉

国名	内容
タイ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付加価値税 (VAT) の免除。</li> <li>・審査・認可手続きの簡素化。</li> <li>・要件を満たすプロジェクトに対する税制・規制上の優遇措置の提供。</li> </ul>
インドネシア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノンサジタルパーク経済特区における優遇措置の導入。</li> <li>・データセンター専任の監督機関の設立計画。</li> </ul>
マレーシア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審査・認可手続きの簡素化。</li> <li>・「MyDigital」デジタル経済国家戦略の下での包括的な政策支援。</li> <li>・「ペナン・シリコン・デザイン (PSD) @5km +」などの優遇措置。</li> </ul>

(資料) 各種報道を基に日本総研作成

地方政府の財政にも好影響をもたらすとみられる。もっとも、データセンターの運用・管理は高度に自動化・省人化されていることから、運用開始後の雇用創出効果は限定的なものにとどまる可能性が高い。

人材育成と技術移転については、高度IT人材の育成とともに、外国直接投資(FDI)を通じた国内企業への技術移転が期待される。

産業の高付加価値化については、データ処理やAI訓練などの高付加価値業務を国内で担うことでの労働集約型から知識集約型への産業構造転換が促され、経済全体の生産性向上につながる。少子高齢化が進む東南アジア各国においては、長期的な潜在成長率を高めるためにも、産業の高度化が喫緊の課題である。

#### ■課題やリスクも浮上

もっとも、データセンター投資の急拡大に伴い、いくつかの課題やリスクも顕在化しており、受入側の各国は対応を求められる。

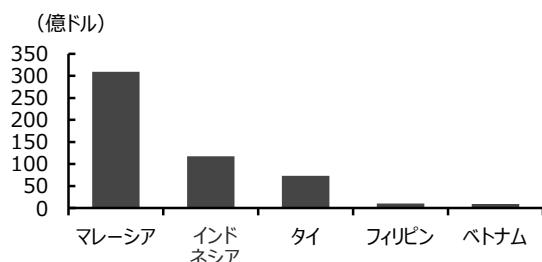
第1に、電力と水資源の供給逼迫懸念である。国際エネルギー機関(IEA)によれば、域内のデータセンターによる電力需要は、2030年までに2024年比で約2倍に増加すると見込まれている。

一方、同地域では再生可能エネルギーの導入や送配電インフラの整備が需要拡大のスピードに追いついておらず、電力不足が現実的なリスクとして浮上している。加えて、高温多湿な東南アジアでは、データセンターの冷却に要する水使用量も大きいため、他用途向けの水供給を圧迫する可能性もある。マレーシア中央銀行によると、50MW規模のデータセンターでは、1日に約22,000世帯分の電力と約2,200世帯分の水を消費すると試算されている。

第2に、短期的な経常収支の下押しである。マレーシアを例にとると、近年のデータセンター投資拡大に伴い、建設段階ではサーバーや冷却設備などの資本財を海外から大量に調達せざるを得ず、貿易収支の黒字幅が縮小し、経常収支の名目GDP比も1%近傍まで下押しされた(右下図)。マレーシアの経常収支は依然として黒字であるため、過度な懸念は不要とみられるものの、経常収支が赤字基調にあるインドネシアやフィリピンにおいては、より慎重な対応が求められる。

第3に、地政学的リスクである。中国企業が東南アジア各国で建設が進むデータセンターを活用し、AIモデルの訓練など高度な演算処理を行う事例が増加している。米国が中国に対して高性能半導体の輸出を制限しているため、中国国内のデータセンターではこうした作業が難しいことが背景にある。今後、米国がこうした中国企業の動きを問題視し、東南アジア諸国に制裁を科す可能性もある。一方で、東南アジア側が米国に配慮して中国企業の利用を制限すれば、今度は中国との関係悪化や貿易・投資上での不利益を被る恐れもある。このように東南アジア各国は、米中対立の狭間で難しい対応を迫られる可能性がある。

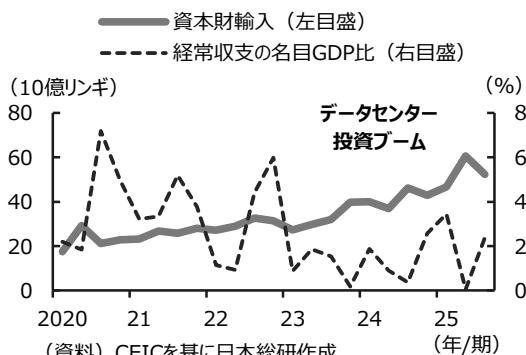
<データセンター建設による生産誘発効果>



(資料) ADB、UN、ILO、Cushman & Wakefield[2025]などを基に日本総研作成

(注) 各国において建設中および計画中のデータセンターがすべて実現した場合の生産誘発効果。建設費用はCushman & Wakefield[2025]から試算。

<マレーシアの資本財輸入と経常収支>



## 台 湾 景気は一部品目の輸出が主導、経済全体は二極化が進行

### ■情報通信機器の輸出が急拡大

台湾景気は、外需主導の急拡大が続いている。11月の輸出は前年同月比+50%増となった。内訳をみると、AIブームにけん引されたサーバー需要を受けて、情報通信機器の輸出が同+160%増となっているほか、半導体などの電子部品の輸出が同+24%と高い伸びを示している(右上図)。一方、これら製品以外の輸出の伸びは前年割れとなっているほか、小売販売など内需の伸びも低調となっている。ICT関連製品の輸出急増から、2025年の台湾経済は高成長を遂げたとみられるものの、2026年には減速に転じると予想される。サーバーや半導体などの輸出は、2025年ほどの勢いを維持し難い。これらは米国の関税対象となる見込みで、輸入価格の上昇を通じて米国のデータセンターなどの投資減速につながるためである。また、足元の景気拡大は一部セクターに偏重しており、雇用の回復ペースが緩慢であるため、内需は低調に推移することが見込まれる。

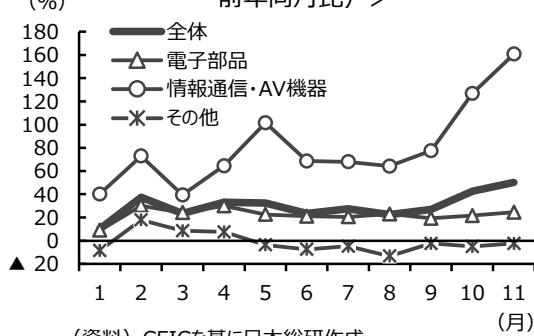
### ■為替の割安感も内需低迷に影響か

台湾では、長期間にわたって、外需は好調で内需が不調という状況が続いている。民間最終消費は、2000年頃はGDPの55%程度を占めていたのに対して、2025年(1~9月)には同45%まで低下しており、この間、経常収支黒字(GDP比)は2%から17%まで拡大している。英エコノミスト誌は「The hidden risks in Taiwan's boom」(2025年11月13日)と題する記事で、中銀による通貨安誘導が為替レートを55%程度割安(ビッグマック指数対比)にとどめており、経済に不均衡が蓄積していると指摘している。これに対して、台湾中銀は、為替レートは様々な要因で変動しており、ビッグマック指数による評価は不適切であると反論している。

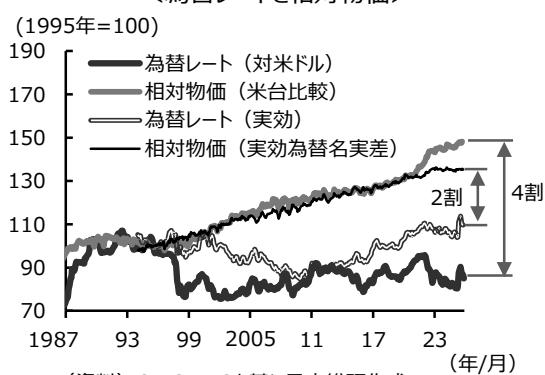
1995年を基準として米台の相対物価と為替レートの推移でみると、台湾の為替レートは対米ドルで約4割過小に評価されている(右下図)。この乖離は、米国のサービス物価の高さから生じている部分も大きいことから、多通貨から算出される実効レートベースで比較してみると、相対物価と為替レートの乖離は2割程度に縮小するものの、やはり実効レートが過小評価であるとの結論は変わらない。台湾では、恒常的な通貨安により、家計から輸出企業への所得移転が生じており、内外需のバランスが取れた経済成長を実現していくためには通貨価値の引き上げが必要と考えられる。ただし、為替レートの増価は、輸出企業の業績悪化や巨額の外貨建て対外投資ポジションの損失などの痛みを伴うことになる。政策当局による今後の通貨政策のかじ取りが注目される。

副主任研究員 室元 翔太 (muromoto.shotan7@jri.co.jp)

<輸出(2025年、新台湾ドル建て、前年同月比)>



<為替レートと相対物価>



## インドネシア 足元で内需回復するも先行き景気は減速へ

### ■景気は足踏み状態

インドネシアでは、景気回復に一部で足踏みがみられる。政府による一連の景気刺激策の効果や年末商戦に向けた需要の持ち直しを背景に、内需は足元で回復している。11月の消費者信頼感指数は124と、2カ月連続で上昇した(右上図)。10月の小売売上高も前年同月比+4.3%と、前月の同+3.7%から加速した。

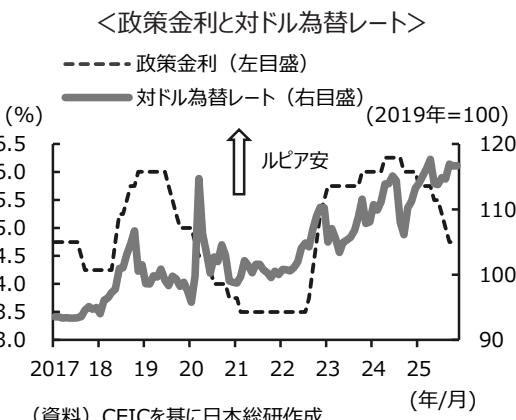
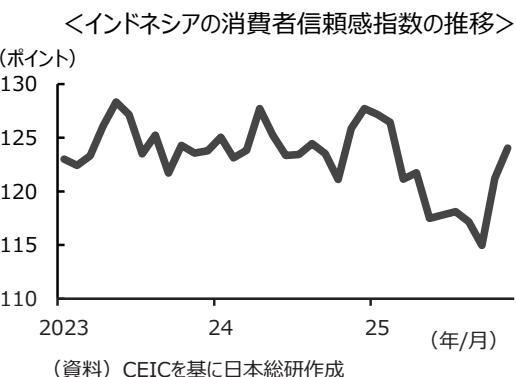
一方、外需は勢いを欠く展開となっている。10月の輸出は同▲2.31%と、19カ月ぶりにマイナスの伸びとなった。中国向け需要の低迷に加え、石炭、ニッケル、パーム油といった主要輸出品目であるコモディティーの価格下落が影響した。

直近では自然災害による経済への影響にも注意が必要である。GDPの約2割を占めるスマトラでは豪雨により深刻な被害が発生し、死者・行方不明者が1,000人を超えた。インフラの損壊や被災者の労働復帰の遅れによって、パーム油やゴムなど主要産業の生産活動が停滞しており、経済損失は名目GDP比で0.3%に達するとの試算もある。今後の復旧・復興には多額の財政支出が求められる見通しであるが、プラボウォ大統領が目玉政策として掲げる無料給食制度の拡充に伴い、国家予算の再配分が進んだことで、防災関連の予算が削減されている。これにより復旧・復興が遅れ、生産停滞が長期化する恐れがある。

### ■大幅に下落した通貨ルピアの対ドルレート

偏った予算配分は、単に防災関連への支援を滞らせるだけでなく、地域経済の発展を阻害する恐れもある。中央政府は2026年国家予算案に基づき、地方移転財源(TKD)の削減を進めている。もっとも、地方政府の約3分の2がTKDに大きく依存していることから、今回の削減により、自主財源の確保を求められる見通しである。これにより、中小企業の税負担増加を招く恐れがある。中国からの安価な衣料品などの輸入拡大による国内の価格競争激化も相まって、中小企業の経営環境が一段と悪化することが懸念される。

財政の持続可能性に対する懸念や政治的不確実性の高まりを背景に、金融市場ではリスク回避の動きが強まりつつある。インドネシア国債における外国人投資家の保有比率が13%まで低下するなど、資本流出が加速しており、通貨ルピアには強い下押し圧力がかかっている。今後、通貨安への懸念がさらに強まれば、政策金利の引き下げが先行き一層困難になると見込まれ、内需失速を招くリスクが高まる点に注意が必要であろう(右下図)。



## ベトナム 輸出好調も、内需に息切れ感

### ■外需主導で景気回復が継続

足元のベトナム景気は、外需主導で持ち直しが続いているものの、内需の一部に弱い動きがみられる。

外需の面では、11月の財輸出が前年同月比+15.3%と、高い伸びを維持している（右上図）。AIブームや半導体関税発動前の駆け込み需要を背景に、電子・電気機器の輸出が同+53.3%と大幅に増加し、輸出全体をけん引した。

相互関税の対象品目については、品目ごとに明暗が分かれる展開となった。繊維・衣類の輸出は2カ月連続で前年割れとなった一方で、玩具の輸出は同+175.4%と急増している。日欧の大手玩具メーカーによる中国からの生産移転が追い風となっている。

サービス輸出は引き続き高成長を維持している。11月の外国人訪問者数は前年同月比+15.6%と、7カ月連続で2桁成長を記録した。

一方、内需の面では息切れ感が漂う。11月の消費者物価指数（CPI）は前年同月比+3.58%と、10月（同+3.25%）から伸びを高めた（右下図）。

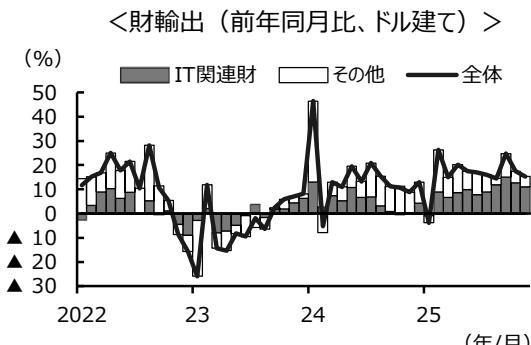
台風や豪雨の影響による食料品価格の上昇に加え、年末の帰省・旅行シーズンに伴う交通費の高騰が主因である。こうした物価上昇が家計の実質購買力を圧迫し、年末にかけて個人消費には頭打ちの兆しが見られる。実際、11月の小売売上高は前年同月比+7.1%と、2カ月連続で伸びが鈍化した。

以上を踏まえ、10~12月のベトナム景気は回復が続いているものの、年前半と比べると勢いに欠ける状況である。

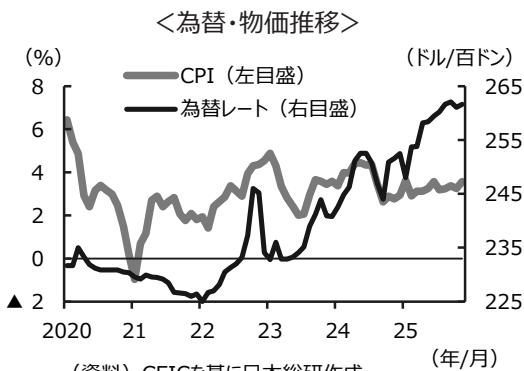
### ■再び為替操作国認定のリスク

2026年のベトナム景気は、外需を中心に減速することが見込まれる。2025年にみられた駆け込み輸出の反動減に加え、相互関税の影響が本格化することや、半導体関税の発動などが重なり、景気をけん引してきた輸出に下押し圧力がかかるとみられる。

ベトナムは、通貨ドン安を通じて輸出財やサービスの相対的な価格競争力を高め、輸出数量の拡大を図っている。しかし、トランプ大統領は米国の貿易赤字を生む要因として貿易相手国の通貨安を批判しており、ドン安政策は米国による関税以外の制裁措置を誘発する可能性がある。実際、米国は2020年12月に、ベトナムを為替操作国に認定した経緯がある。現時点でベトナムは米国の為替操作監視対象国リストに含まれていないものの、再び為替操作国と認定されれば、通貨高への転換を余儀なくされ、ベトナムの輸出競争力が損なわれる恐れがある。



(資料) CEICを基に日本総研作成  
(注) IT関連財は半導体・電子・電気機器を含む項目を抽出。



(資料) CEICを基に日本総研作成

## 中 国 内需が一段と減速

### ■輸出は持ち直すも内需が減速

足元の中国景気は、内需を中心に一段と減速している。とりわけ消費は、2025年11月の小売売上高が前年同月比+1.3%と、コロナ禍の影響があった2022年12月（同▲1.8%）以来の低い伸び率となった（右上図）。この要因として、以下の3点が挙げられる。

第1に、耐久消費財買い替え補助金の効果過減である。10月下旬以降、自動車や家電に対する購入補助金を打ち切る地方が増えており、それら商品による消費のけん引力が大きく低下している。

第2に、軟調な雇用環境である。若年層を中心失業率が高止まりしており、消費マインドの低迷につながっている。

第3に、11月の中国最大のオンライン通販セール「ダブルイレブン」が、2025年は10月上旬に前倒し開催され、消費押し上げ効果が月を跨いで分散したことである。ただし、ダブルイレブンの開始時期のズレを考慮しても、春ごろから始まった小売売上高の減速トレンドに歯止めがかからない。

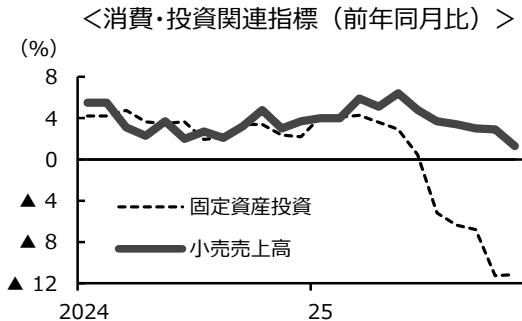
固定資産投資も大幅マイナスが続いている。背景には、①設備更新補助金の効果減衰、②過剰生産能力解消に向けた動き、③不動産需要の低迷継続、といった諸要因が積み重なって、企業の投資マインドが冷え込んでいることがある。

輸出は、10月の一時的な落ち込みから前年比増加に復帰し、景気の下支え役となっている（右下図）。対米輸出は前年同月比▲28.6%と大幅減が続く一方で、ASEAN・NIEs、EUなど向は総じて増加した。品目別では、PC・スマホ部品、自動車（EVなど）、船舶が好調であった。

### ■先行き景気は一段と減速

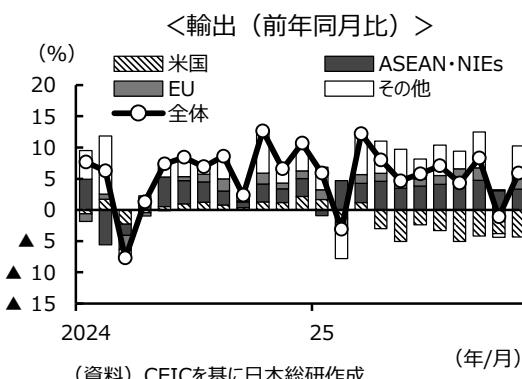
先行きを展望すると、景気は一段と減速するものの、急失速は回避される見通しである。輸出は、半導体関税の発動などにより ASEAN・NIEs の対米電子機器輸出が減速し、中国から同地域向けの中間財輸出も下押しされると予想される。内需も、支出意欲の弱さや政策効果のはく落などから一段の減速が見込まれる。その結果、2026年の成長率はさらに低下する見通しである。

もっとも、経済成長率が大きく下振れしそうな局面では、政府が補助金・投融資の拡大などの景気対策を打ち、失速回避を図ると見込まれる。政府は12月に中央経済工作会议を開催し、内需拡大を2026年の経済運営の最重点項目と位置付けた。具体的には、積極的な財政政策と適度な金融緩和の継続による安定的なマクロ経済の運営、消費促進特別行動計画などによる消費の拡大、新型政策金融ツールの活用などを通じた投資の回復に取り組む方針を示している。



(資料) CEICを基に日本総研作成

(注) 固定資産投資は年初来累計の値を基に計算。



(資料) CEICを基に日本総研作成

## アジア諸国・地域の主要経済指標

### 1. 経済規模と所得水準 (2024年)

	韓国	台湾	香港	シンガポール	タイ	マレーシア	インドネシア	フィリピン	中国	インド	ベトナム
名目GDP (億米ドル)	18,752	8,015	4,069	5,474	5,267	4,224	13,963	4,616	187,481	39,108	4,763
人口 (百万人)	51.7	23.3	7.4	5.8	71.7	35.3	282.4	115.4	1,420.9	1,444.4	100.7
1人当たりGDP (米ドル)	36,235	34,253	54,251	90,668	7,987	12,406	4,958	4,095	13,313	2,778	4,700

(注1) インドの表2~10は年度、表1、11は暦年。

### 2. 実質GDP成長率(前年比、前年同期比、%)

	韓国	台湾	香港	シンガポール	タイ	マレーシア	インドネシア	フィリピン	中国	インド	ベトナム
2023年	1.6	1.1	3.2	1.8	2.0	3.5	5.0	5.5	5.4	9.2	5.1
2024年	2.0	4.8	2.5	4.4	2.5	5.1	5.0	5.7	5.0	6.5	7.1
2023年1~3月	1.3	-3.6	2.9	1.0	2.7	5.7	5.0	6.4	4.7	6.9	3.5
4~6月	1.2	1.4	1.5	1.3	1.9	2.7	5.2	4.3	6.5	9.7	4.3
7~9月	1.5	1.6	4.1	1.9	1.6	3.1	4.9	6.0	5.0	9.3	5.5
10~12月	2.2	4.7	4.3	3.1	1.8	2.8	5.0	5.5	5.3	9.5	6.8
2024年1~3月	3.4	6.6	2.8	3.2	1.7	4.2	5.1	5.9	5.3	8.4	6.0
4~6月	2.2	4.9	3.1	3.4	2.3	5.9	5.0	6.5	4.7	6.5	7.3
7~9月	1.4	4.2	1.9	5.7	3.0	5.4	4.9	5.2	4.6	5.6	7.4
10~12月	1.1	3.8	2.4	5.0	3.3	4.9	5.0	5.3	5.4	6.4	7.6
2025年1~3月	0.0	5.5	3.0	4.1	3.2	4.4	4.9	5.4	5.4	7.4	7.0
4~6月	0.6	7.7	3.1	4.7	2.8	4.4	5.1	5.5	5.2	7.8	8.2
7~9月	1.8	8.2	4.1	4.2	1.2	5.2	5.0	4.0	4.8	8.2	8.2

### 3. 製造業生産指数(前年比、前年同月比、%)

	韓国	台湾	香港	シンガポール	タイ	マレーシア	インドネシア	フィリピン	中国	インド	ベトナム
2023年	-2.5	-12.7	3.8	-4.2	-3.6	0.7	2.4	6.3	4.6	5.5	1.6
2024年	4.2	12.2	0.8	3.8	-1.3	4.3	2.6	0.1	5.8	4.0	9.6
2024年3月	0.4	4.8	1.8	-8.5	-3.7	1.3	0.6	-6.2	4.5	5.9	4.6
4月	7.6	15.3		-1.1	3.3	4.9	7.2	6.5	6.7	4.2	7.0
5月	5.1	16.5		2.8	-1.2	4.6	2.0	3.3	5.6	5.1	10.6
6月	3.3	13.6	0.6	-3.3	-1.2	5.2	0.1	3.6	5.3	3.5	12.6
7月	5.1	13.8		3.0	2.0	7.7	1.9	6.6	5.1	4.7	13.3
8月	3.6	13.5		22.8	-1.2	6.5	-0.6	0.0	4.5	1.2	9.1
9月	-1.7	12.4	-0.1	9.2	-3.0	3.2	1.5	-7.0	5.4	4.0	10.4
10月	6.6	9.4		1.2	-0.1	3.3	4.8	-1.6	5.3	4.4	8.6
11月	-0.1	11.0		10.8	-3.3	4.6	3.1	-4.1	5.4	5.5	10.0
12月	4.9	20.7	0.9	5.0	-1.8	5.8	3.8	0.1	6.2	3.7	10.2
2025年1月	-5.0	5.3		5.5	-1.1	3.7	-1.2	3.1	5.9	5.8	0.5
2月	6.5	19.3		1.3	-3.9	4.8	6.1	-1.2	5.9	2.8	20.0
3月	4.8	13.6	0.7	7.8	0.0	4.0	-0.4	-0.6	7.7	4.0	11.7
4月	5.4	25.2		4.6	1.9	5.6		-3.1	6.1	3.1	12.3
5月	-0.4	23.4		3.7	1.9	2.8		-0.8	5.8	3.2	11.5
6月	1.9	19.9	0.9	7.8	0.4	3.6		1.3	6.8	3.7	9.2
7月	5.1	20.2		7.8	-3.8	4.4		-2.2	5.7	6.0	7.6
8月	1.0	14.8		-9.0	-4.4	2.8		1.7	5.2	3.8	9.9
9月	12.3	17.8	5.4	16.2	1.2	5.0		1.6	6.5	5.6	12.5
10月	-8.3	15.4		29.1	-0.1	6.5		1.7	4.9	1.8	11.0
11月									4.8		11.8

### 4. 消費者物価指数(前年比、前年同月比、%)

	韓国	台湾	香港	シンガポール	タイ	マレーシア	インドネシア	フィリピン	中国	インド	ベトナム
2023年	3.6	2.5	2.1	4.8	1.2	2.5	3.7	6.0	0.2	5.4	3.3
2024年	2.3	2.2	1.7	2.4	0.4	1.8	2.3	3.2	0.2	4.6	3.6
2024年3月	3.1	2.1	2.0	3.0	-0.5	1.8	3.0	3.7	0.1	4.9	4.0
4月	2.9	1.9	1.1	2.6	0.2	1.8	3.0	3.8	0.3	4.8	4.4
5月	2.7	2.2	1.1	3.1	1.5	2.0	2.8	3.9	0.3	4.8	4.4
6月	2.4	2.4	1.4	2.5	0.6	2.0	2.5	3.7	0.2	5.1	4.3
7月	2.6	2.5	2.5	2.5	0.8	2.0	2.1	4.4	0.5	3.6	4.4
8月	2.0	2.4	2.5	2.2	0.4	1.9	2.1	3.3	0.5	3.7	3.4
9月	1.6	1.8	2.2	1.9	0.6	1.8	1.8	1.9	0.4	5.5	2.6
10月	1.3	1.7	1.3	1.2	0.8	1.9	1.7	2.3	0.5	6.2	2.9
11月	1.5	2.1	1.4	1.6	0.9	1.8	1.5	2.5	0.2	5.5	2.8
12月	1.9	2.1	1.4	1.5	1.2	1.7	1.6	2.9	0.4	5.2	2.9
2025年1月	2.2	2.7	2.0	1.2	1.3	1.7	0.8	2.9	0.5	4.3	3.6
2月	2.0	1.6	1.4	0.9	1.1	1.5	-0.1	2.1	-0.7	3.6	2.9
3月	2.1	2.3	1.4	0.9	0.8	1.4	1.0	1.8	-0.1	3.3	3.1
4月	2.1	2.0	2.0	0.9	-0.2	1.4	1.9	1.4	-0.1	3.2	3.1
5月	1.9	1.5	1.9	0.8	-0.6	1.2	1.6	1.3	-0.1	2.8	3.2
6月	2.2	1.4	1.5	0.8	-0.2	1.1	1.9	1.4	0.1	2.1	3.6
7月	2.1	1.5	1.0	0.6	-0.7	1.2	2.4	0.9	0.0	1.6	3.2
8月	1.7	1.6	1.1	0.5	-0.8	1.3	2.3	1.5	-0.4	2.1	3.2
9月	2.1	1.2	1.1	0.7	-0.7	1.5	2.7	1.7	-0.3	1.4	3.4
10月	2.4	1.5	1.2	1.2	-0.8	1.3	2.9	1.7	0.2	0.3	3.2
11月	2.4	1.2			-0.5		2.7	1.5	0.7	0.7	3.6

## 5. 失業率 (%)

	韓国	台湾	香港	シンガポール	タイ	マレーシア	インドネシア	フィリピン	中国	インド	ベトナム
2023年	2.7	3.5	3.0	1.9	1.0	3.4	5.3	4.4	5.2	6.6	2.3
2024年	2.8	3.6	4.2	2.0	1.0	3.7	4.9	5.1	5.6	6.5	2.2
2024年3月	3.0	3.4	2.9	1.9	1.0	3.3		3.9	5.2	6.7	2.2
4月	3.0	3.4	3.0		1.1	3.3		4.0	5.0		
5月	3.0	3.3	3.1		1.2	3.3		4.1	5.0		
6月	2.9	3.4	3.0	2.4	0.9	3.2		3.1	5.0	6.6	2.3
7月	2.5	3.5	3.1		1.1	3.2		4.7	5.2		
8月	1.9	3.5	3.2		1.1	3.2	4.9	4.0	5.3		
9月	2.1	3.4	3.1	1.8	0.8	3.2		3.7	5.1	6.4	2.2
10月	2.3	3.4	3.2		1.0	3.2		3.9	5.0		
11月	2.2	3.4	3.1		0.9	3.2		3.2	5.0		
12月	3.8	3.3	3.0	1.7	0.8	3.1		3.1	5.1	6.4	2.2
2025年1月	3.7	3.3	2.9		0.9	3.1		4.3	5.2		
2月	3.2	3.3	2.9		0.8	3.1	4.8	3.8	5.4		
3月	3.1	3.4	3.2	1.8	0.9	3.1		3.9	5.2		2.2
4月	2.9	3.3	3.4		1.0	3.0		4.1	5.1	6.5	
5月	2.8	3.3	3.6		0.8	3.0		3.9	5.0	6.9	
6月	2.8	3.4	3.6	2.4	0.8	3.0		3.7	5.0	7.1	2.2
7月	2.4	3.4	3.8		0.7	3.0		5.3	5.2	7.2	
8月	2.0	3.5	3.9		0.7	3.0	4.9	3.9	5.3	6.7	
9月	2.1	3.4	4.1	1.9	0.8	3.0		3.8	5.2	6.8	2.2
10月	2.2	3.4	3.9		0.7	3.0		5.0	5.1	7	
11月	2.2	3.4	3.8		0.7			5.1	6.5		

(注2) インドネシアは8月、インドは年度平均のデータ。

## 6. 輸出 (通関ベース、100万ドル、%)

	韓国	前年比	台湾	前年比	香港	前年比	シンガポール	前年比	タイ	前年比		
2023年	632,226	-7.5	432,420	-9.8	534,503	-7.8	475,384	-7.7	285,074	-0.8		
2024年	683,609	8.1	474,925	9.8	583,133	9.1	504,806	6.2	300,740	5.5		
2024年3月	56,518	3.0	41,790	18.8	49,149	5.1	42,544	-3.5	25,081	-10.4		
4月	56,148	13.6	37,443	4.2	48,367	12.2	41,143	11.1	23,258	6.7		
5月	58,021	11.5	37,318	3.3	48,125	15.1	42,056	11.0	26,234	7.0		
6月	57,342	5.6	39,880	23.4	47,823	11.0	38,476	-2.4	24,804	-0.3		
7月	57,459	13.9	39,921	3.1	49,993	13.2	44,016	12.2	25,744	15.3		
8月	57,643	10.9	43,623	16.8	48,904	6.8	42,397	6.9	26,225	7.2		
9月	58,545	7.1	40,548	4.5	51,102	5.2	42,019	5.3	26,026	1.3		
10月	57,500	4.6	41,282	8.4	50,576	4.2	42,800	0.9	27,290	14.9		
11月	56,289	1.3	41,065	9.6	50,733	2.4	43,631	5.8	25,638	8.3		
12月	61,359	6.6	43,556	9.1	52,316	5.7	44,537	13.1	24,765	8.7		
2025年1月	49,184	-10.1	38,707	4.4	49,985	0.5	43,696	1.2	25,277	13.5		
2月	52,294	0.4	41,297	31.4	42,137	16.0	40,088	5.5	26,707	14.1		
3月	58,063	2.7	49,547	18.6	58,606	19.2	43,680	2.7	29,548	17.8		
4月	58,042	3.4	48,644	29.9	55,965	15.7	51,488	25.1	25,625	10.2		
5月	57,260	-1.3	51,739	38.6	55,641	15.6	44,951	6.9	31,045	18.3		
6月	59,830	4.3	53,329	33.7	53,235	11.3	44,739	16.3	28,650	15.5		
7月	60,724	5.7	56,678	42.0	56,856	13.7	50,105	13.8	28,581	11.0		
8月	58,270	1.1	58,451	34.0	55,787	14.1	44,184	4.2	27,743	5.8		
9月	65,915	12.6	54,244	33.8	59,391	16.2	48,511	15.4	30,971	19.0		
10月	59,505	3.5	61,583	49.2	59,397	17.4	54,161	26.5	28,836	5.7		
11月	61,033	8.4	64,053	56.0			49,246	12.9				
	マレーシア	前年比	インドネシア	前年比	フィリピン	前年比	中国	前年比	インド	前年比	ベトナム	前年比
2023年	312,965	-11.1	258,785	-11.3	73,617	-7.5	3,379,044	-4.7	437,072	-3.1	354,721	-4.6
2024年	330,761	5.7	266,529	3.0	73,269	-0.5	3,575,795	5.8	437,699	0.1	405,896	14.4
2024年3月	27,354	-5.9	22,620	-3.4	6,225	-5.9	279,138	-7.7	41,693	-0.6	33,640	12.9
4月	24,167	1.7	19,693	2.1	6,305	28.2	291,717	1.3	39,802	15.0	31,270	11.0
5月	27,164	2.6	22,442	3.4	6,335	-3.0	301,603	7.4	38,781	10.9	33,850	19.5
6月	26,772	0.0	21,058	2.2	5,569	-17.3	307,236	8.4	35,446	3.3	33,913	13.3
7月	28,125	10.4	22,527	8.0	6,252	0.1	300,224	6.9	32,680	-5.2	36,451	20.9
8月	29,260	17.1	23,599	7.3	6,753	0.4	308,242	8.6	32,890	-14.1	37,894	15.5
9月	29,050	9.4	22,151	6.8	6,260	-7.6	303,372	2.3	34,079	-1.0	34,209	11.2
10月	29,833	12.2	24,809	12.0	6,191	-5.0	308,855	12.6	38,980	16.6	35,792	10.7
11月	28,439	9.6	24,113	9.6	5,697	-8.6	311,877	6.6	31,940	-5.4	33,934	8.8
12月	31,092	22.3	23,600	5.4	5,673	-1.9	335,646	10.7	37,804	-1.5	35,562	13.0
2025年1月	27,524	5.4	21,428	4.2	6,571	9.6	324,287	5.9	36,339	-2.6	33,307	-3.8
2月	26,626	13.9	21,944	13.4	6,787	12.8	214,791	-3.1	36,911	-10.9	31,263	26.3
3月	30,977	13.2	23,247	2.8	6,768	8.7	313,116	12.2	42,048	0.9	38,662	14.9
4月	30,268	25.2	20,744	5.3	6,783	7.6	315,115	8.0	38,282	-3.8	37,573	20.2
5月	29,684	9.3	24,614	9.7	7,315	15.5	315,609	4.6	38,303	-1.2	39,756	17.4
6月	28,681	7.1	23,437	11.3	7,064	26.9	324,951	5.8	34,971	-1.3	39,658	16.9
7月	33,076	17.6	24,749	9.9	7,350	17.6	321,400	7.1	37,041	13.3	42,288	16.0
8月	31,081	6.2	24,963	5.8	7,126	5.5	321,506	4.3	34,802	5.8	43,386	14.5
9月	33,027	13.7	24,679	11.4	7,275	16.2	328,384	8.2	36,190	6.2	42,670	24.7
10月	35,201	18.0	24,236	-2.3	7,392	19.4	305,223	-1.2	34,380	-11.8	42,049	17.5
11月							330,351	5.9	38,130	19.4	39,112	15.3

## 7. 輸入（通関ベース、100万米ドル、%）

	韓国	前年比	台湾	前年比	香港	前年比	シンガポール	前年比	タイ	前年比
2023年	642,572	-12.1	351,632	-17.9	593,839	-5.7	422,425	-11.1	288,509	-4.2
2024年	631,767	-1.7	394,350	12.1	631,619	6.4	457,490	8.3	305,523	5.9
2024年3月	52,113	-12.6	33,117	7.1	54,902	5.7	38,293	-0.5	25,937	4.9
4月	54,821	5.5	31,040	6.6	49,669	4.0	38,990	15.5	24,936	8.5
5月	53,133	-2.1	31,347	0.7	49,679	10.0	38,997	14.7	25,367	-2.3
6月	49,090	-7.5	35,208	34.0	54,960	9.3	36,137	4.1	24,393	-0.4
7月	53,839	10.5	35,137	16.1	52,790	10.0	39,362	12.7	26,878	12.2
8月	54,055	6.0	32,172	11.8	53,154	8.4	37,978	4.1	25,647	7.8
9月	52,103	2.2	33,452	17.3	57,931	1.9	37,870	5.5	25,345	8.8
10月	54,332	1.7	34,224	5.9	54,566	5.3	39,219	3.5	27,761	14.8
11月	50,719	-2.5	33,092	19.6	56,309	6.0	38,748	5.7	25,661	0.2
12月	54,866	3.3	37,458	30.2	56,754	-0.7	41,570	22.4	24,638	14.2
2025年1月	51,134	-6.1	28,643	-17.2	49,718	0.9	39,943	8.4	27,157	7.8
2月	48,322	0.2	34,665	47.4	46,804	12.4	34,499	3.1	24,719	4.0
3月	53,330	2.3	42,617	28.7	64,442	17.4	39,990	4.4	28,575	10.2
4月	53,213	-2.9	41,246	32.9	58,027	16.8	42,641	9.4	28,946	16.1
5月	50,303	-5.3	39,120	24.8	59,143	19.0	40,419	3.6	29,928	18.0
6月	50,749	3.4	41,252	17.2	60,742	10.5	37,913	4.9	27,588	13.1
7月	54,186	0.6	42,351	20.5	61,203	15.9	44,528	13.1	28,259	5.1
8月	51,849	-4.1	41,655	29.5	59,035	11.1	40,431	6.5	29,708	15.8
9月	56,400	8.2	41,853	25.1	65,836	13.6	43,831	15.7	29,696	17.2
10月	53,494	-1.5	39,196	14.5	64,535	18.3	48,005	22.4	32,272	16.3
11月	51,293	1.1	47,969	45.0			42,694	10.2		

	マレーシア	前年比	インドネシア	前年比	フィリピン	前年比	中国	前年比	インド	前年比	ベトナム	前年比
2023年	265,667	-9.6	221,886	-6.6	126,209	-8.0	2,556,941	-5.5	673,992	-5.9	326,358	-9.2
2024年	300,216	13.0	235,200	6.0	127,597	1.1	2,583,218	1.0	720,323	6.9	380,991	16.7
2024年3月	24,571	5.0	18,018	-12.5	9,579	-17.6	220,560	-2.1	56,639	-7.0	31,010	9.5
4月	22,474	6.0	16,994	10.7	11,031	13.2	219,838	8.3	54,488	11.1	30,013	18.9
5月	25,040	8.5	19,505	-8.3	11,065	1.2	220,207	2.1	61,675	7.3	34,212	31.4
6月	23,727	15.8	18,539	8.1	9,904	-7.2	208,198	-2.6	55,997	5.3	30,511	14.5
7月	26,674	23.0	21,856	11.7	11,130	7.3	214,744	6.6	59,474	11.9	33,963	25.3
8月	27,820	31.0	20,843	10.4	11,149	2.9	216,690	0.0	68,510	10.4	33,702	14.6
9月	26,033	22.0	18,974	9.4	11,362	10.1	221,615	0.1	58,720	8.3	31,890	11.5
10月	27,052	13.4	22,098	18.3	12,006	11.6	213,139	-2.4	65,210	3.4	33,764	14.1
11月	25,093	7.4	19,768	0.9	10,633	-3.3	214,551	-4.0	63,870	16.6	32,734	10.0
12月	26,771	16.9	21,509	12.6	9,819	-1.4	230,470	0.8	58,479	2.7	34,996	19.2
2025年1月	26,704	11.5	17,936	-3.5	11,498	11.2	186,264	-16.3	59,430	10.7	30,140	-2.5
2月	23,785	13.2	18,849	1.8	9,761	1.9	183,556	1.6	50,964	-14.8	32,666	40.3
3月	25,389	3.3	18,920	5.0	11,280	17.8	211,160	-4.3	63,507	12.1	36,855	18.8
4月	29,105	29.5	20,585	21.1	10,755	-2.5	219,221	-0.3	65,384	20.0	36,823	22.7
5月	29,506	17.8	20,312	4.1	10,947	-1.1	212,827	-3.4	60,856	-1.3	38,975	13.9
6月	26,698	12.5	19,333	4.3	11,461	15.7	210,684	1.2	54,087	-3.4	36,809	20.6
7月	29,627	11.1	20,575	-5.9	11,773	5.8	223,690	4.2	64,885	9.1	39,999	17.8
8月	27,330	-1.8	19,475	-6.6	11,112	-0.3	219,641	1.4	61,976	-9.5	39,669	17.7
9月	28,221	8.4	20,335	7.2	11,944	5.1	237,976	7.4	69,297	18.0	39,824	24.9
10月	30,693	13.5	21,843	-1.2	11,220	-6.5	215,192	1.0	76,060	16.6	39,445	16.8
11月							218,675	1.9	62,660	-1.9	37,983	16.0

## 8. 貿易収支（100万米ドル）

	韓国	台湾	香港	シンガポール	タイ	マレーシア	インドネシア	フィリピン	中国	インド	ベトナム
2023年	-10,346	80,788	-59,336	52,959	-3,435	47,298	36,899	-52,592	822,102	-236,920	28,363
2024年	51,842	80,576	-48,486	47,316	-4,783	30,544	31,330	-54,328	992,577	-282,624	24,906
2024年3月	4,405	8,673	-5,754	4,251	-856	2,783	4,602	-3,354	58,578	-14,946	2,630
4月	1,327	6,402	-1,302	2,154	-1,678	1,693	2,700	-4,726	71,879	-14,686	1,258
5月	4,888	5,971	-1,555	3,058	867	2,124	2,937	-4,730	81,396	-22,894	-361
6月	8,251	4,672	-7,137	2,340	411	3,046	2,519	-4,336	99,037	-20,551	3,402
7月	3,620	4,784	-2,797	4,654	-1,134	1,452	671	-4,878	85,479	-26,794	2,488
8月	3,588	11,451	-4,250	4,419	579	1,440	2,755	-4,395	91,553	-35,620	4,192
9月	6,442	7,097	-6,829	4,149	681	3,017	3,177	-5,103	81,757	-24,640	2,320
10月	3,169	7,058	-3,990	3,581	-471	2,781	2,711	-5,815	95,717	-26,230	2,029
11月	5,570	7,972	-5,576	4,883	-22	3,346	4,344	-4,936	97,326	-31,930	1,201
12月	6,493	6,098	-4,438	2,967	127	4,320	2,090	-4,146	105,176	-20,675	566
2025年1月	-1,951	10,064	267	3,753	-1,880	820	3,492	-4,926	138,023	-23,092	3,168
2月	3,972	6,631	-4,667	5,589	1,988	2,841	3,095	-2,974	31,234	-14,053	-1,403
3月	4,733	6,930	-5,835	3,691	973	5,588	4,327	-4,513	101,956	-21,460	1,807
4月	4,829	7,397	-2,062	8,847	-3,321	1,163	159	-3,973	95,894	-27,102	750
5月	6,956	12,619	-3,503	4,532	1,116	178	4,302	-3,632	102,782	-22,553	781
6月	9,081	12,077	-7,508	6,827	1,062	1,983	4,104	-4,396	114,267	-19,116	2,849
7月	6,538	14,327	-4,347	5,577	322	3,449	4,174	-4,423	97,710	-27,844	2,289
8月	6,421	16,796	-3,247	3,753	-1,964	3,751	5,488	-3,986	101,865	-27,174	3,717
9月	9,515	12,391	-6,445	4,680	1,275	4,806	4,344	-4,670	90,408	-33,107	2,846
10月	6,011	22,387	-5,138	6,157	-3,437	4,508	2,393	-3,828	90,032	-41,680	2,604
11月	9,740	16,085		6,552					111,676	-24,530	1,129

## 9. 経常収支 (100万米ドル)

	韓国	台湾	香港	シンガポール	タイ	マレーシア	インドネシア	フィリピン	中国	インド	ベトナム
2023年	32,822	105,810	32,329	89,418	8,479	4,400	-2,042	-12,387	263,382	-26,033	25,793
2024年	99,043	112,754	52,552	96,009	11,619	6,059	-8,723	-18,262	423,919	-22,947	30,508
2024年2月	6,444				2,833			-8			
3月	6,989	30,527	12,182	25,006	506	1,850	-2,418	-662	47,248	4,586	7,354
4月	1,486				-757			-2,211			
5月	9,095				-506			-2,550			
6月	13,096	23,225	12,601	23,699	1,112	903	-2,995	-1,131	55,459	-4,454	5,483
7月	9,051				-83			-1,553			
8月	6,730				1,518			-1,652			
9月	11,288	25,080	15,435	25,701	1,065	405	-2,017	-2,053	157,437	-20,832	9,494
10月	9,401				913			-2,518			
11月	10,046				1,546			-1,791			
12月	12,368	33,922	12,335	21,620	2,622	2,936	-1,293	-617	163,776	-11,315	8,177
2025年1月	2,940				3,445			-2,195			
2月	7,178				6,164			73			
3月	9,145	29,646	16,314	27,272	1,549	3,756	-172	-2,116	165,449	13,654	3,959
4月	5,702				-1,606			-1,802			
5月	10,142				-561			-1,502			
6月	14,265	36,759	12,276	26,973	3,108	62	-2,748	-1,758	128,677	-2,722	8,723
7月	10,779				2,397			-1,348			
8月	9,149				-1,521			-931			
9月	13,467	45,839		26,008	1,873	2,898	4,047	-927	195,600	-12,292	12,459
10月	6,814				-1,785						

## 10. 外貨準備 (年末値、月末値、金を除く、100万米ドル)

	韓国	台湾	香港	シンガポール	タイ	マレーシア	インドネシア	フィリピン	中国	インド	ベトナム
2023年	415,353	570,595	425,416	351,031	208,291	110,889	141,149	93,196	3,237,977	593,744	92,238
2024年	410,809	576,677	421,329	371,433	217,253	112,971	149,118	95,251	3,202,357	584,312	83,082
2024年3月	414,457	568,100	423,357	368,682	206,526	111,007	134,848	93,536	3,245,657	593,744	90,956
4月	408,465	567,019	416,197	366,877	203,833	110,036	130,363	92,393	3,200,831	584,312	
5月	408,037	572,803	417,083	370,542	206,783	110,835	133,062	94,994	3,232,039	595,009	
6月	407,416	573,299	416,124	371,675	206,781	110,917	134,299	95,281	3,222,358	595,469	84,723
7月	408,712	571,740	418,946	378,619	212,160	111,760	139,308	96,426	3,256,372	612,091	
8月	411,122	579,058	423,310	384,587	216,807	113,877	143,878	97,637	3,288,215	620,489	
9月	415,175	577,929	422,653	389,812	223,138	116,422	143,223	101,847	3,316,367	640,033	84,286
10月	410,895	576,846	421,157	383,722	217,857	114,291	144,203	99,730	3,261,050	612,379	
11月	410,597	577,974	424,963	377,233	217,488	115,049	143,518	97,462	3,265,860	592,221	
12月	410,809	576,677	421,329	371,433	217,253	112,971	149,118	95,251	3,202,357	569,553	83,082
2025年1月	406,220	577,583	421,292	376,703	220,960	113,099	149,017	91,519	3,209,036	559,715	
2月	404,415	577,584	416,174	379,323	223,198	115,012	147,289	95,345	3,227,224	565,426	
3月	404,865	578,022	412,323	382,606	221,747	113,683	149,421	93,907	3,240,665	590,150	82,553
4月	399,878	582,832	409,957	389,229	231,987	114,896	144,116	91,969	3,281,662	604,310	
5月	399,801	592,948	430,841	401,730	232,741	115,796	144,099	91,451	3,285,255	607,891	
6月	405,408	598,432	431,779	404,963	237,487	116,532	144,247	92,197	3,317,422	614,810	83,067
7月	406,540	597,869	425,174	397,336	237,067	117,201	143,640	91,635	3,292,235	605,972	
8月	411,491	597,430	421,405	391,267	241,345	118,602	141,889	92,575	3,322,154	608,042	
9月	417,221	602,943	418,837	393,135	244,170	118,834	138,797	92,675	3,338,658	602,624	
10月	424,024	600,197	425,786	392,198	241,830	118,997	139,052	93,359	3,343,343	588,007	
11月	425,864	599,791	429,400	400,020	242,771	119,300	138,657	93,052	3,346,372		

(注3) シンガポールは金を含む。

## 11. 政策金利 (年末値、月末値、%)

	韓国	台湾	香港	シンガポール	タイ	マレーシア	インドネシア	フィリピン	中国	インド	ベトナム
2023年	3.50	2.00	5.75		2.50	3.00	6.00	6.50	3.45	6.50	4.50
2024年	3.50	2.00	5.75		2.50	3.00	6.25	6.50	3.45	6.50	4.50
2024年3月	3.50	2.00	5.75		2.50	3.00	6.00	6.50	3.45	6.50	4.50
4月	3.50	2.00	5.75		2.50	3.00	6.25	6.50	3.45	6.50	4.50
5月	3.50	2.00	5.75		2.50	3.00	6.25	6.50	3.45	6.50	4.50
6月	3.50	2.00	5.75		2.50	3.00	6.25	6.50	3.45	6.50	4.50
7月	3.50	2.00	5.75		2.50	3.00	6.25	6.50	3.35	6.50	4.50
8月	3.50	2.00	5.75		2.50	3.00	6.25	6.25	3.35	6.50	4.50
9月	3.50	2.00	5.25		2.50	3.00	6.00	6.25	3.35	6.50	4.50
10月	3.25	2.00	5.25		2.25	3.00	6.00	6.00	3.10	6.50	4.50
11月	3.00	2.00	5.00		2.25	3.00	6.00	6.00	3.10	6.50	4.50
12月	3.00	2.00	4.75		2.25	3.00	6.00	5.75	3.10	6.50	4.50
2025年1月	3.00	2.00	4.75		2.25	3.00	5.75	5.75	3.10	6.50	4.50
2月	2.75	2.00	4.75		2.00	3.00	5.75	5.75	3.10	6.25	4.50
3月	2.75	2.00	4.75		2.00	3.00	5.75	5.75	3.10	6.25	4.50
4月	2.75	2.00	4.75		1.75	3.00	5.75	5.50	3.10	6.00	4.50
5月	2.50	2.00	4.75		1.75	3.00	5.50	5.50	3.00	6.00	4.50
6月	2.50	2.00	4.75		1.75	3.00	5.50	5.25	3.00	5.50	4.50
7月	2.50	2.00	4.75		1.75	2.75	5.25	5.25	3.00	5.50	4.50
8月	2.50	2.00	4.75		1.50	2.75	5.00	5.00	3.00	5.50	4.50
9月	2.50	2.00	4.50		1.50	2.75	4.75	5.00	3.00	5.50	4.50
10月	2.50	2.00	4.25		1.50	2.75	4.75	4.75	3.00	5.50	4.50
11月	2.50	2.00	4.25		1.50	2.75	4.75	4.75	3.00	5.50	4.50

資料出所一覧

国名	発行機関	資料名	備考
韓国	Bank of Korea IMF 国際連合	Monthly Statistical Bulletin IFS World Population Prospects 2024 CEICデータベース	政策金利：ベースレート
台湾	行政院 台湾中央銀行 国際連合	台湾経済論衡 中華民国統計月報 金融統計月報 World Population Prospects 2024 CEICデータベース	政策金利：公定歩合
香港	香港特別行政区政府統計處 国際連合	香港統計月刊 香港对外貿易 World Population Prospects 2024 CEICデータベース	政策金利：基準貸出金利
シンガポール	Departments of Statistics IMF 国際連合	Monthly Digest of Statistics IFS World Population Prospects 2024 CEICデータベース	政策金利：なし
タイ	Bank of Thailand IMF 国際連合 National Statistical Office	Monthly Bulletin IFS World Population Prospects 2024 CEICデータベース	政策金利：翌日物レポレート
マレーシア	Bank Negara Malaysia IMF 国際連合	Monthly Statistical Bulletin IFS World Population Prospects 2024 CEICデータベース	政策金利：オーバーナイト政策金利
インドネシア	Biro Pusat Statistik Bank Indonesia IMF 国際連合 ISI Emerging Market	Indicatoe Ekonomi Laporan Mingguan IFS World Population Prospects 2024 CEICデータベース	政策金利：BIレート
フィリピン	National Statistical Office IMF 国際連合	各種月次統計 IFS World Population Prospects 2024 CEICデータベース	政策金利：翌日物借入金利
中国	中国国家統計局 中華人民共和国海關總署 国際連合	中国統計年鑑 中国海關統計 World Population Prospects 2024 CEICデータベース	政策金利：最優遇貸出金利
インド	Reserve Bank of India CIME 国際連合 IMF	RBI Bulletin Monthly Review World Population Prospects 2024 CEICデータベース	政策金利：レポレート
ベトナム	統計総局 国家銀行 IMF 国際連合 ISI Emerging Market	各種月次統計 各種月次統計 IFS World Population Prospects 2024 CEICデータベース	政策金利：リファイナンスレート

※主要経済指標は、2025年12月19日時点で入手したデータに基づいて作成。

本誌は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本誌は、作成日時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたのですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。